

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年4月14日(2005.4.14)

【公表番号】特表2004-513170(P2004-513170A)

【公表日】平成16年4月30日(2004.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2004-017

【出願番号】特願2002-541098(P2002-541098)

【国際特許分類第7版】

C 0 7 D 487/04

A 0 1 N 43/90

C 0 7 C 209/62

C 0 7 C 211/03

// C 0 7 B 53/00

C 0 7 M 7:00

【F I】

C 0 7 D 487/04 1 4 6

A 0 1 N 43/90 1 0 5

C 0 7 C 209/62

C 0 7 C 211/03

C 0 7 B 53/00 G

C 0 7 M 7:00

【手続補正書】

【提出日】平成15年6月12日(2003.6.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

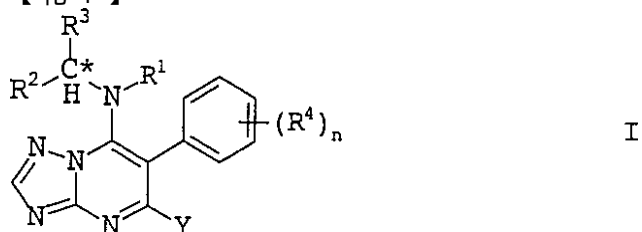
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式I:

【化1】



[式中、置換基及び添え字は以下に定義されている通りである:]

R¹ は水素又はメチルであり;

R² はメチルであり;

R³ はC₂ ~ C₁₀-アルキル、C₁ ~ C₄-アルコキシメチル、C₃ ~ C₁₀-シクロアルキル、又はC₃ ~ C₁₀-シクロアルキル-C₁ ~ C₄-アルキルであり、この場合、これらの基は1 ~ 3個の置換基R^aを有していてもよく;

(R⁴)_n は2,6-ジフルオロ-4-メチルであり;

Y はハロゲン、シアノ、C₁ ~ C₄-アルキル又はC₁ ~ C₄-アルコキシであり;

* は(R)-配置にあるキラル中心である]

で表される7-(R)-アミノトリアゾロピリミジン。

【請求項2】

R^1 は水素であり； R^3 は $C_2 \sim C_{10}$ -アルキル又は $C_3 \sim C_{10}$ -シクロアルキルであり；
Y は塩素である、請求項1に記載の式Iの化合物。

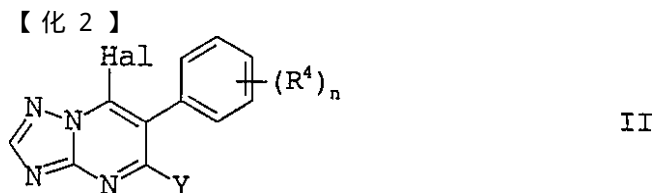
【請求項3】

R^3 はt-ブチル又はイソプロピルである、請求項2に記載の式Iの化合物。

【請求項4】

請求項1に記載された式Iの化合物の製造方法であって、

式II：



[式中、置換基 R^4 及びY並びに添え字nは、請求項1で定義されている通りである]で表される7-ハロトリアゾロピリミジンを含む式III：



[式中、置換基 R^1 、 R^2 及び R^3 は請求項1で定義されている通りである]で表される(R)-配置のアミンと反応させることを含んでなる前記方法。

【請求項5】

(R)-3,3-ジメチルブタ-2-イルアミン又は(R)-3-メチルブタ-2-イルアミンを用いる、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

式IIIの(R)-配置のアミンを、以下の工程：

- (i) 加水分解酵素の存在下に、その酸成分のカルボニル炭素の近くにフッ素原子、窒素原子、酸素原子又は硫黄原子を有するエステルを用いて、式IIIのラセミ体アミンをエナンチオ選択的にアシル化し；
- (ii) (S)-アミン IIIとアシル化された(R)-アミン IIIの混合物を分離し；
- (iii) アシル化された(R)-アミン IIIをアミド切断に付すことにより製造する、請求項4に記載の方法。

【請求項7】

固体担体及び/又は液体担体と、殺真菌剤として有効な量の請求項1に記載された式Iの少なくとも1種の化合物を含んでなる殺真菌剤組成物。

【請求項8】

植物病原性真菌を防除する方法であって、真菌、又は真菌の攻撃を受けるおそれのある材料、植物、種子若しくは土壌を、殺真菌剤として有効な量の請求項1に記載されている式Iの少なくとも1種の化合物で処理することを含んでなる前記方法。